

令和7年度
学校関係者評価報告書
(第1回)

令和7年5月28日(水)

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「令和6年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等5名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

評価委員	会社（企業）名	役職名	任 期	備 考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	会長	R9. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役 (当日・欠席)
森 邦彦	特定非営利活動法人 鹿児島インファーマーション	理事長	R9. 3. 31	
竹下 とみお	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	代表理事	R9. 3. 31	協同組合 ドゥ・アート 代表理事
小森 昌章	株式会社 小森昌章建築設計事務所	理事	R9. 3. 31	(当日・欠席)
押井 啓一	南九州税理士会	相談役	R9. 3. 31	税理士法人 押井会計 代表社員 (当日・欠席)
眞邊 隆洋	合同会社 エムコミュニケーション	代表	R9. 3. 31	
川北 康貴	株式会社 エーアイエス	取締役常務 執行役員	R9. 3. 31	
前平 秀康	卒業生 株式会社 土佐屋	取締役 総務部長	R9. 3. 31	(当日・欠席)
原村 真美	保護者		R8. 3. 31	

3. 委員会次第（概 要）

（1）開会

（2）学校長挨拶

就任の挨拶と本委員会の目的について説明を行った。

（3）委員長選任

本校校長、中広 義隆委員を委員長に選出し、議長とした。

（4）令和6年度 学校自己点検評価報告

校長より、評価の変更の項目および、今後の取り組みについての報告を行った。

（詳細は後記のとおり）

（5）討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

（6）学校長挨拶

（7）閉会

4. 評価の変更の項目および、今後の取り組みについての報告（校長）

・ 1 建学の精神・教育理念、教育目標

例年通り4評価。特に変更等はない。今後は新しい時代に即した見直しや情報を収集する必要がある。毎週月曜日の朝礼時に職員全員で唱和を行い、口にすることで意識付けを図っている。

・ 2 教育の内容

例年どおり4評価。大きな問題点はない。

3-（カリキュラム作成メンバーの中に、業界関係者などの外部関係者を参入させているか）

現状、一部の学科・コースのみ積極的に実施。情報系であれば定期的に企業説明会を行っている。企業（外部）の方と直接話しをすることで情報収集にも繋がる。公務員科も毎週様々な行政の方にお越しいただき講話を行っているが、全体的に更なるヒヤリングが必要。このような機会を増やすことで今後のカリキュラム作成にさらに活かすことができるので、評価を「3」に落とした。

9-（学生によるアンケートなどによる授業評価が、定期的に行われているか）

10-（結果に基づく教員面接を実施しているか）

11-（結果に基づく研修を行っているか）

学科毎に温度差あり。アンケートを取って満足している傾向にある。最近ではGoogle フォームを利用して容易に実施できる環境にあるため、学校全体でしっかりと実施したい。また、アンケート結果もしっかりと活かしたいので「3」の評価とした。

15-（授業改善のための組織的取組が、行われているか ※授業改善委員会）

本件においても学科毎に差があることを真摯に受け止めている。他学科で行っている良い点を取り入れる等工夫が必要と判断したため「3」の評価とした。

21-（他の高等教育機関との連携講座などを行っているか）

これまではグループ校との交流も含まれると思い「4」にしていたが、KBCCは九州総合学院の中でも唯一「全国専門学校各種学校研究会（東京都を除く道府県から形成）」に属している。定期的に会合が行われていることから機会にも恵まれており、多方面との交流も必要と感じた。また、学科の壁があるのも事実であることから、学校全体で業務改善に努めることとし、今回は「3」評価とした。

3 教育の実施制度

3- (学生が利用可能な参考図書、関連図書は備えられているか)

(図書室設置) 時代にそぐわないので項目自体を削除。昨今ではネットでの情報収集が主。学生も自身のスマホで調べものを行っており、学校としてもPCルームの配置で十分だと考える。

4- (就職支援を行うための指定された場所があるのか)

学生数もかなり多くなり教室にゆとりがなく今回は設けることができなかった。建設中の公務員科専用新校舎に期待したい。

5- (学内全面禁煙および喫煙にかかる社会生活上のルールとマナーを指導しているか)

教職員も要注意。喫煙のみならず、歩き飲みも厳禁であることから注意が必要。

10- 学校生活 (実習・行事・学外活動等) における保険に加入しているか)

日本人学生・留学生共に加入済。比較的留学生の方がトラブルが多いため、やや高い掛金で保証も手厚くしている。

・ 4 教育目標の達成度と教育効果

この項目に関しては例年通り全て「4」評価。特に就職に関する目標は100%達成。就職に関しても、公務員科の採用試験を除き、ほぼ100%である。昨年度(令和6年度)は、1名最後まで結果が振るわず年度末の就職率は98.4%であった。しかし今後も対象の学生においても気持ちを切替えて、ベストを尽くせるよう支援したい。

・ 5 学生支援

7- (入学予定者に対し、学習指導・支援等を行っているか)

従来通り評価「4」ではあるが、より一層強化したいと考えている。間もなく始まる7月のA0エントリー生徒向けに、夏休みの課題として何かしら提供したいと検討中である。

8- (入学者に対し、学習・学生生活のためのオリエンテーションを行っているか)

毎年、入学直前である3月に、入学前オリエンテーションを行っている。

16- (奨学金制度等の経済的支援があるのか)

現在は国の支援が充実している。昔は国の教育ローン「日本政策金融公庫」及び日本学生支援機構の「奨学金」が主体となっていたが、高等教育無償化により2020年に始まった「修学支援新制度」と合わせて3つの制度を利用することで充足する学生が非常に多くなっているため、しっかりと利用できるようにサポート体制を整えている。

21- (卒業生の就業先への定期的な訪問をしているか)

現実問題、ほとんど出ていない。それ以前の支援体制や職業紹介については親身になって相談に乗っているが、日々授業に追われており、企業訪問に時間を費やせていない。

24- (進路・就職に関する支援体制は整備されているか)

今季教職員を増員し30名を超えた。よって支援体制も整いつつあるので、期待値も込めて「4」評価とした。

・ 6 社会的活動

1- (目標・計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を実施しているか)

6- (地域貢献・地域共生を意識した交流活動等を実施しているか)

KBCCの学生主体で何か行うことができるのではないかと考えている。例えば天文館プロジェクトを立ち上げる等で学校のPRにもなりイメージアップも図れ、学生の自信にも繋がる。これらの理由により「3」に引き下げた。

・ 7 管理・運営(各校)

1- (関係法令・専修学校設置基準等の遵守と、適正な運営がなされているか)

コンプライアンス/法令遵守の観点や県の認可を受けて補助金もいただいている学校、尚且つ大事な学生をお預かりしているので、今後もしっかりと遵守していきたい。

2- (個人情報をはじめ各種情報の保護のためのセキュリティ等対策が適切に取られているか)

個々の行動やモラルに依存している部分もあるが、更に意識する必要がある。

また、今週日本郵便が始めた「デジタルアドレス」の活用を検討。学生や保護者宛の郵送物に個人情報を印字せずにデジタルアドレスを使用することで、個人情報の保護に努めているという意識付けにも繋がるので、今後も社会情勢にアンテナを張りながら運営していきたい。

5. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

■森委員

・教職員が評価しているのか?

(校長) 幹部の少数人で行っている。

・評価が4段階評価だが、業界で決まっているのか?

(校長) 小中高含め文科省の指示で決まっている評価体制である。しかし、既成概念に囚われすぎてもよろしくないので、貴重なご意見として上申する。

・【2】-9(学生によるアンケートなどによる授業評価が、定期的に行われているか)

これは学科単位か?授業単位か?

(校長) 学科単位。

・学科単位だとアバウト過ぎるので、可能な範囲で授業単位で実施してみても?

(校長) 要検討。

■竹下委員

・委員には何度も出席しているのでこれまでもKBCCのことは見てきている。評価の下がった項目もあるが、気に

する必要はない。改善していけば良い。

(校長) 常に高みを見て向上していきたい。

・留学生(外国人)について、日本人に積極的に話し掛けてほしいと思っている。海外の方は集団で行動するが日本人はその輪の中に入っていくので、散らばって行動すると良い。ベトナムの方々と記憶しているが、以前にちょっとしたテントイベントを行っていたが、日本人はなかなか参加しづらい。一般の方が参加しやすいイベントを主催することで、KBCCのPRにも繋がるのでは？

(校長) 県や市主催の交流会もあるが、日本人は参加しづらい状況にある模様。これだけ外国人口も増えつつあるので、世間の見方も変わってくるのではないかと思っている。

(森委員) 県や市が行っている日本人と外国人の交流会には参加しているか？

(校長) 参加している。先日も交流会に参加した。

(池田彩) 国際交流会館で開催された「ハッピーパーティ」というイベントにミャンマー、スリランカ、ネパール、インドの4か国の学生が参加した。

(森委員) 地道なことをやっていくしかないですね。

(校長) 元気がいい分音量も大きいので、怖がらせてしまっている部分はある。こういった部分も含めて地道にやっていく必要がある。

■眞邊委員

・図書室設置項目の廃止を受けて、学校側で項目の増減が可能なのか？

(校長) 可能。時代に応じて評価項目も変更していく必要がある。

・留学生も多数在籍しているので、留学生向けの項目として“文化の違い”等を盛り込んでみては？

(校長) 学生の半分は留学生なので検討する。

・ボランティア活動について、鹿児島県茶業協会の方より、「鹿児島のお茶をPRするために専門学生と組んで何かできないか？」との話が出た。PR動画の作成等、KBCC全体で取り組んでみてもよいと思った。街の美化も大事だが、こういったボランティア活動もありなのではないか？

(校長) 是非とも取り組みたい。

・また、外国人(留学生)においても、先日の中央公園のイベントの際に外国人の集団を見て、高齢女性が怖がっていた。危害を加える訳ではないのだが、実際問題、外国人に慣れない方も多数いらっしゃる。外国人(留学生)主体で各国の文化を発信するであったり、イベント開催であったり、KBCCだからこそできるボランティア活

動があると思う。

(校長) 非常に真面目で意欲的な学生が多い。外国人に対しての偏見や苦手意識を払拭させる取り組みも、専門学校として大事なことだと思っている。

■川北委員

- ・医療機関でも AI の導入が著しい。早い段階より授業に取り入れることで、就職活動にも有利になる。

(校長) 分野に関わらず、AI や ICT は当たり前になってきていますよね。

・相反する意見かもしれないが、医師等は卒業後 2 年後位に行っている「卒後研修」というものがあるが、KBCC も同様のことを行っているのか？例えば「〇〇の授業は楽しかったよね、役立ってるよね」等、現場の意見を聞いたり、後フォローや研修を行う場を設けているのか？

(校長) 現状行っていない。卒業生も業務に追われてなかなか時間が取れない。

(森委員) リカレント教育と文科省の実証授業を組合せて行ってみては？

(校長) 文科省より委託業務を受けて実証授業を行っている最中である。高校の新卒だけを頼りにできない時代にもなってきているので、社会人の方でリカレント（学び直し）で勉強し直したい方向けの授業を検討中である。さまざまなご意見を組合せて検証しており、専門学校の教育でどのように活かしていくかも併せて検討中である。

また、今年度医療秘書科での取り組みとして、卒業生に来校していただき在校生向けに講話をしてもらっている。現場の声をお聞きする良い機会なので、積極的に設けている。

(川北委員) 講話等お声掛け下されば私も喜んでお受けします。

■原村委員（保護者）

- ・初めて参加した。学生のことを思ってくれているのが伝わってくる。

(校長) 今後ご意見等が出てきた場合には、厳しく指摘願う。

- ・昨年のおはら祭りを見に行ったが、留学生が上手に踊っていて楽しそうだった。

(校長) 日本人の方が踊り慣れているはずだが、留学生の方が上手ですね。

—以 上—

記録：久永